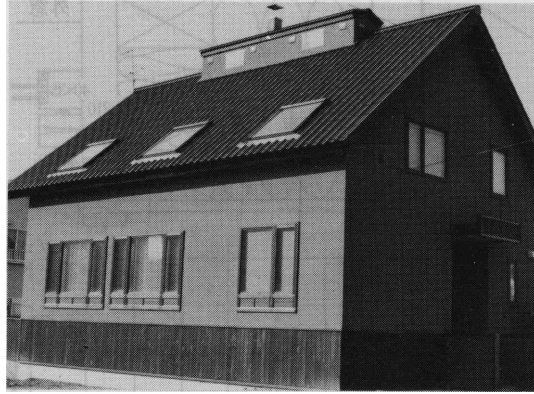


手稲実験住宅

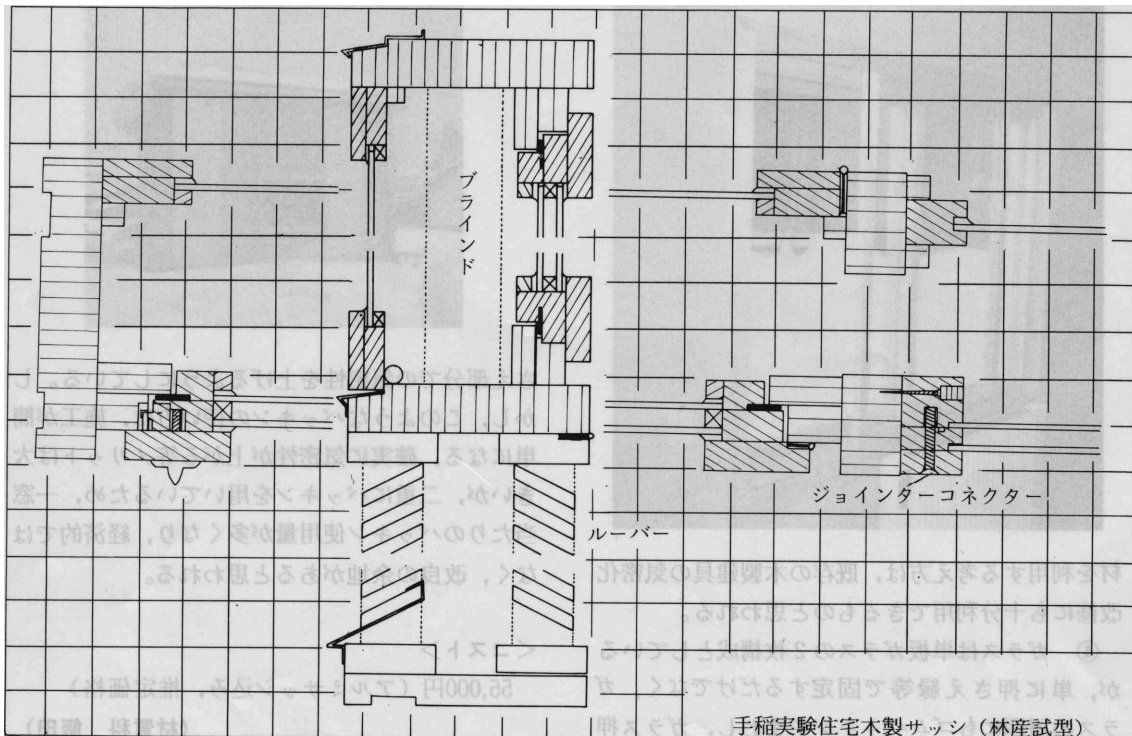
<概要> 札幌市西区手稲に、林産試験場の開発製品を取り入れて建てられた住宅で、窓には当场で試作したはめ殺し、開きのコンビネーション窓、及び室蘭工業大学で設計したはめ殺し、及び開き窓を使用している。



林産試型

<考え方> 窓は2重窓で、開き部分は内側が内開き、外側が外開きであり、その間にブラインドが入る。気密は主として内窓にとりつけたゴムシールのおしつけによって得ている。また、窓の下部にルーバーを設け、夏の通風を考慮している。冬はルーバーの間に断熱材等を入れて、外気を防ぐ

方法がとられている。



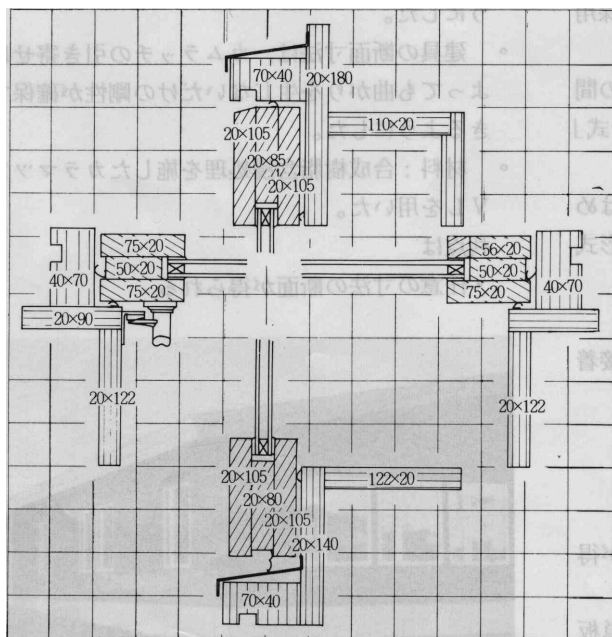
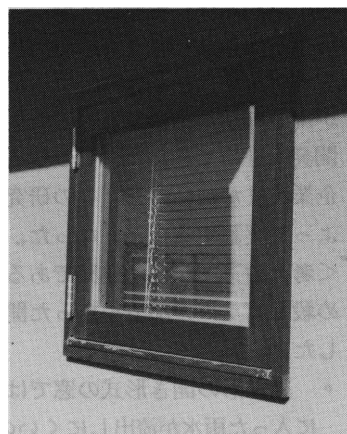
<特徴> 枠の構造は開き部とはめ殺し部で異なる。開き部の内枠は3層積層接着でつくられている。それに対しはめ殺し部のものは、3層をジョインターコネクター(ビスナット)でとめている。これにより製造時の簡素化をはかる、と同時にガラスの取り替えを容易にしている。戸当たりはすべて木ネジで外枠にとりつけられている。ガラスは単板ガラスを2層にして使用しており(3-12-3)、さらに外窓(3mm単板ガラス)をあわせると3層構成ガラス



となり、気密、断熱性能を高めている。また、ガラスの固定、気密は押さえ縁及びシリコン系コーキングを使用して得ている。

室蘭工大型

<考え方> 機構は外開き及びはめ殺しである。気密は締め金具で内枠を引きつけ、パッキンをおしつけることで得る構造である。



<特徴> この窓も林産型と同様に3層積層接着である。また、外枠も3層積層しており、各層ごとにまずフレームを組んだ後、3層を木ネジ圧縮積層接着している。気密はピンチブロック(R)を2段に配して得ている。ガラスは林産試型と同様単板ガラス2枚を用いて複層ガラス(3-9-3)にしている。さらに、この窓の特徴は、使用部材幅を20mm又は40mmに統一して使用し、加工を簡素化している、という点であろう。 (加工科 石井)

手稲実験住宅木製サッシ(室蘭工大型)